



「がん撲滅プロジェクトセンターの紹介」新聞記事(2016年2月7日付け・山陰中央新報)



「がん撲滅プロジェクトセンターの取り組みをわかりやすくお伝えする」をテーマに内科・外科・基礎医学の観点から市民公開講座を開催。

島根大学発のバイオ医薬品開発に向けて がん撲滅プロジェクトセンター

多くのがん患者が治癒できる可能性があるなかで、膵がんの5年相対生存率は10%以下となっており、膵がん患者は「死亡宣告」を受けたにも等しい状況と言えます。島根県は全国と比べても膵がん罹患率が高いことが知られており、地域における高齢者の安心な暮らしを実現するためには、難治性がん、特に膵がんに対する早期診断及びより良い治療法の早急な構築は喫緊の課題です。

このような地域課題に立脚して進めてきた島根大学独自の研究プロジェクトから生まれた学内研究成果を基に、文部科学省から島根大学特別経費プロジェクト「がん撲滅に向けての集学的研究の推進—膵がんを中心とした難治性がんに対する低侵襲的ながん治療法の確立—」(平成25年度から5年間)が予算措置されました。このプロジェクトを基盤として、臨床および基礎研究の垣根を越えて12名の医師・研究者から構成される本プロジェクトセンターでは、集学的研究の推進により膵がんを標的とした新たな抗体医薬品・免疫療法の開発を進めています。

膵がん撲滅プロジェクトセンター長
島根大学医学部 病態生化学
教授 浦野 健



がんは我が国において死亡原因の第1位であり、今後も高齢者を中心に増加が予想され、国民の健康に対する最大の脅威となっています。全国がんセンター協議会が2016年1月に公開した集計によれば、がんの中でも、膵がんの5年相対生存率は9.1%と最下位です。予後が悪いことが知られている膵がんでは、肺癌(43.9%)、胃癌(73.1%)、大腸がん(75.9%)です。本プロジェクトセンターでの膵がん治療法の確立が島根県、ひいては全国の膵がん患者の救済につながるようにプロジェクトを推進していきます。

